

# 「建設業で本当にあった心温まる物語」第2弾発刊

NPO建設経営者倶楽部KCC理事長 降旗 達生氏

NPO法人の建設経営者倶楽部KCC理事長を務める降旗達生ハタコンサルタント（名古屋市）代表取締役が、建設業に携わる人たちの実話をベースにまとめた冊子の第2弾「建設業で本当にあった心温まる物語Ⅱ」が評判を呼んでいる。建設業への入職が期待される学生や一般の人たちが読みやすいよう、平易な言葉でつづった物語が60編。現場の苦労話に共感を持ってもらうことで「建設業で働く若い人たちの定着率が高まることも期待している」と言う降旗氏に話を聞いた。



建設業で本当にあった心温まる物語Ⅱ



くしたいと考えた」

——収録した物語の内容は。

「400編からえりすぐった60編で構成した。第1弾と同様、全国で実施している研修会の受講生に課題として書いてもらったものが中心だ。選定した物語の大半は、どん底に落ちてそこから頑張っただけで上がっていく姿を描いたもの。人は、成功した人の話よりも苦労話の方に感動を覚える。その方

土木科や建築科のある高校や大学に無料で1000部近く配布した。本編は1部5000円（税別）で販売している。電子書籍（1部3000円）にして、スマートフォンなどでより手軽に読めるようにもしている」

——続編の予定は。

「シリーズ化して年1回のペースで発刊していくつもりだ。第3弾では、建設現場の職人の声を集めた『技能者編』を作りたい。大工、左官、鉄筋などの仕事に携わる人たちの物語集にする」

## どん底からはい上がる姿伝える

——第2弾を発刊した狙いは。

「昨年発刊した第1弾は、おかげさまで皆さんに興味を持って読んでいただいた。第2弾の今回は、土木と建築、技術者と技能者の違いもよく分からないという一般の方たちも意識した構成を考えて編著に当たった」

「『建設業はオバケのようだ』といわれることがある。なんだかよく分からないけど、怖いのだという。そうした建設業に対する誤解や不安を払しょ

が建設業に入りたという気持ちも持ってもらうやすいのではないか。きつい仕事に耐えられずに辞めていく若者も多いが、物語を読んで『きつといつか良いことがある』と思ってもらいたい」

——物語をどのように普及させていく。

「まずは書かれている物語の内容を知ってもらいたいと思い、4月に発刊した第2弾のダイジェスト版を無料で

——若者の入職促進は業界の大きな課題。冊子以外にどのような取り組みを考えている。

「中部地方の企業を中心に70社ほどが参加するNPOの若手社員でプロジェクトを編成しており、学生向けのホームページ（HP）開設やイベントの開催を企画中だ。HPでは、『自分の1日』や携わった構造物などを紹介しながら、建設の仕事のやりがいを知ってもらおう。秋には立ち上げたい」。